

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

5年2組では、総合的な学習の時間において、新潟県上越市牧区高尾集落（以下、高尾集落）とかかわる活動を行います。高尾集落は、上越市の市街地から自動車ですら30分ほどかかる場所、標高330mほどにある中山間地域です。1000年以上の歴史をもつとされ、受け継がれてきた独自の文化や歴史的な建築物があります。

子どもが、そこでの暮らしについて、豊かな体験と確かな学びを得ていくにあたり、築200年以上の空き家となっている古民家を借り、その構造を理解したり、その魅力を維持しながら補修、改築したりしていきます。このような活動は、子どもが、我が国の伝統的な住まいを理解したり、それを基に自身の住まいをとらえ直したりしながら、住まいを文化として愛おしむ価値観を育て、住生活や住環境をより豊かに魅力的につくりあげていくための教育になると考え、応募しました。

2. 学習予定の概要を（イ）（ロ）に触れながら以下のA. B. C. 3点について記入してください。

（イ）気づき（児童生徒に気づきをどう促すか）

（ロ）自ら調べ考える（児童生徒にどう考えさせるか）

A. 中心となる活動

子どもは、高尾集落の築200年以上、空き家となって17年が経つ古民家を、所有者から預かります。

40畳ほどの座敷やその天井に張られた大きく太い梁、その家屋を支える太さ30センチほどの檼の柱などから、我が国の伝統的な住居の構造を理解します。また、そのような住居は、風通しや採光、季節に応じた行事などを考慮してつくられていることに気づきます。そして、それらは、自分が暮らす家にも部分的に取り入れられ、受け継がれていることに気づきます。

一方で、空き家となっていたために、戸や畳にすずが付着していたり、座敷の障子が剥がれていたり、風通しの悪い部屋の床下の木が傷んでいたりとすることを目の当たりにしたり、気づいたりします。自分と仲間の手で住みやすくしたい、直したい、つくり変えたいという思いや願いが湧き上がります。適切な掃除の仕方や障子の貼り方、木造建築の改修の仕方について、自ら調べたり、集落に暮らす大工さん、建具屋さんなどに教えてもらったりしながら、古民家の補修、改築に取り組んでいきます。

そして、古民家の掃除や整備、改修に取り組むことを通して、我が国の伝統的な住居の構造、その手入れの方法、そのような住居の魅力、維持の難しさを深く理解していきます。

このような活動を進めていくとともに、高尾集落にある築150年の古民家を大胆に改築し、シェアスペースを営んでいる家、築100年ほどの古民家を手入れし続けながら今も暮らしている家、集落に馴染むような新たな家を建て、移住してくる方の家を訪れます。それぞれの方が暮らしや移住に込めた思いにふれたり、その住まいのつくりを知ったりし、自分と仲間暮らしをつくっている古民家や自分の住まいと比べ、よりよい住まいについての自身の考えをつくっていきます。

B. 授業の狙いと特徴（住生活向上の視点を含めてお書きください）

本授業の狙いは、「上越市牧区高尾集落の暮らしとかかわることを通して、我が国、および高尾集落における伝統的な住まいや文化に気づいたり、それらを理解したりし、それらがもつ魅力や課題に向き合って生きる考えをつくる」です。

特徴は、次の3点です。

1. 我が国の伝統的な住まいや暮らしを維持している中山間地域で活動する

子どもは、中山間地域の高尾集落で活動します。高尾集落は、現在、23軒の家があり、50名ほ

どが住んでいます。それぞれの家は、伝統的な木造構造です。ただし、住民の高齢化は顕著で、住む人がなくなった家屋をすぐに解体する傾向があり、伝統的な構造の家屋が維持されていない現状があります。

また、集落は、そこに長く暮らす方、移住して30年ほどが経つ方、新たに移住する方で構成されています。加えて、家屋は、伝統的なつくりを維持しているもの、古民家のよさを維持しながら改築したもの、集落の雰囲気馴染むような形で新たに建築したものが 있습니다。

子どもは、伝統的な住まいや暮らしにふれるとともに、様々な形でそれらを維持していくことができることを理解します。

2. 活動の拠点とする空き家となっている古民家を整備、補修、改築する

子どもは、高尾集落にある築200年以上、空き家となって17年、所有者が解体を検討していた古民家を預かり、活動の拠点とします。

集落における最大規模の古民家であり、40畳ほどの座敷、大きく太い柱や梁などに我が国の伝統的な木造構造の家屋の魅力や、それを建築する技術の高さを感じたり、理解したりすることができます。一方で、あらゆる場所の掃除をしたり、障子を貼り直したり、床下の木が朽ちて改築したりすることを要する部分が多くあります。

子どもは、古民家の魅力を感じるとともに、それを維持していくことの困難さを理解します。そして、古民家を整備、補修、改築しながら、より一層、その構造や魅力、伝統的な建築物を受け継いでいくことの意味や価値について深く考え、理解していきます。

C. 学習の流れ（指導計画）

1. 高尾集落を訪れる

- ①町内会長家族が営む古民家を改築したシェアスペースを訪れる
- ②集落の各家庭に流れる集落放送を聞く
- ③住民の家を回り、暮らし方を見聞きする
- ④集落の歴史を調べたり、それについての話を聞いたりする
- ⑤移住してきた方から、その思いや新たにつくっている暮らしについて聞く

2. 高尾集落における自分たちの家とする古民家を整備、補修、改築する（本授業の中心となる活動）

- ①高尾における自分たちの家とする古民家に入る
- ②所有者の思いや、その家屋の歴史について聞く
- ③整備、補修、改築したい部分について仲間とともに話し合う
- ④協力してほしい集落の方にその依頼をする
- ⑤古民家の掃除を継続して行う
- ⑥障子を貼ったり、貼り直したりする
- ⑦部屋の改修をする

3. 高尾集落の家に集落の方を招いたり、集落外の方を招いたりする

- ①整備、補修、改築を終えた古民家に、集落の方を招き、もてなす
- ②高尾集落で以前行われていた集落外の方を招くイベントについて話を聞く
- ③新たな形態で、高尾集落の方と共に集落外の方を招くイベントを開く

3. 授業とガイドライン「住教育の領域」との関りについてお書きください。

本授業は、ガイドライン「住教育の領域」における「住まいと社会」に主に関わっています。また、そのうち、「住み続けたいまち」に深く関わっています。

子どもは、高尾集落という具体的なまちの住まい、暮らしとかがわっていきます。また、活動の拠点とする古民家を、集落に暮らす方と共に、自らの手で整備、補修、改築していきます。その過程で、我が国の伝統的な住まい、暮らしについて気づいたり、理解したりしていくと共に、よりよい住まい、暮らし、人が集って形成するまちについて考えていきます。

子どもは、本授業を通して、地域の環境に配慮して生活を工夫する意欲や技能、実践力を身につけていくことができると考えます。

その他特記事項がありましたらお書きください。

特にありません。

※ページが複数枚になってもかまいません。

※他に添付資料がありましたらお付けください。